

町 長	副町長	課 長	主 幹	担 当	合 議

別記様式第4号

会議等結果報告書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	2 4 5
		決裁期日	平成 2 4 年 1 0 月 3 1 日
名 称	上富良野町協働のまちづくり推進委員会（第 2 回）		
日 時	平成 2 4 年 1 0 月 2 3 日（火） 午後 5 時 5 0 分～午後 7 時		
場 所	保健福祉総合センターかみん 1 階会議室		
出席者	委員 6 人 町民生活課事務局 3 人 合計 9 名		

内 容

**【進行：町民生活課長】**

◎ **会長あいさつ**

会長：上富良野町ではこれまでさまざまな行事や組織が作られた中で、新しい発案が出されている。最終的に協働のまちづくりが非常に大事な要素になってきていると思っている。この度自治基本条例を見直し、町長に答申しなければならないということで皆さんにお集まりいただいている。それを踏まえて皆さんのご協力を願いたい。事務局の議案に基づいて進めていきたいと思うのでよろしく願いたい。

**議 題**

- 1 上富良野町自治基本条例の見直しに関する検討について
- 2 上富良野町協働のまちづくり推進委員会

事務局：前回の会議で、参考自治体のお話をさせていただいた。どこの自治体もすでに見直しに入っているのだが、わかりやすかったのが1市と1町のものであった。この推進委員会のやることの確認なのだが、前回お話ししたように、条例の条文中の見直しの時期に来ているということで、その見直しについてお話をしたい。

1市は条例の改正はなかったが、条文一つ一つの5段階評価を行った。これは、どの自治体もすごく評価しているが、すごく大変である。1市においては市民向けのアンケートをしている。1市はこういう形で検討結果をまとめて、市長さんの方に提言している。一方でもう1つの1町では、まず検証結果と提言とし、いくつかの項目に分けて検証の結果と結果に対する提言を書いている。そして条例改正の必要な部分を出して見直しを掛けた。

この推進委員会についても提言書あるいは検討結果をまとめて、町に提案するという形になるのかなと思っている。

会長：私どもの町の基本条例は相当な検討を踏まえて作っている。気が付いたところを直していくのは結構だが、他市町村を見ても提言を重視している。この提言書をわが町でも作るため、参考資料を基に事務局にまとめてもらい、それに何をプラスするか提言を加えるだけで十分だ

と思うのだがいかがだろうか。

会長：上富良野町自治基本条例の主な取組みという資料の条文に町民の責務がある。例えばパブリックコメントはやっている。

事務局：パブリックコメントは実施しているが意見が出てこない。

会長：それでは意見が出てこないところを提言し、住民にわかりやすくしていかなければならないのではないかとすることを答申していけばいいのではないかと。

事務局：会長が言われた通りである。わかりづらいかと思い、今回の表を作成している。町民の責務に対しての行政の主な取組みとして、行政がまちづくりアンケート調査をし、町民の皆さんには責務としてそれを返してほしい。

会長：上富良野町で観光振興計画を策定している。協働のまちづくりはこのような振興計画に盛り込まれているが、それをどうやって実行していくかというのが協働のまちづくりだと思う。

事務局：上富良野町観光振興計画もパブリックコメントをしている。町民の責務として意見の提出を求めている。

会長：町民は今のところ受け身で、行政からの問いかけ体制ができていない。協働のまちづくりで問いかけをどのようなかということ町民の責務としてやっていくことが大事である。

事務局：パブコメは、直接提出しても町民ポストでもメールでもFAXでもいいとなっているが、必ず名前を記名して、自分が誰かということ明らかにして意見を述べなければならぬということがある。言いたいことはたくさんあるのだが、自分の名前は出たくないという人もいるので、そういう点もハードルが高くなっているところがある。それを自由にしてしまうと困る面もあるので、そういう点も含めて議論の対象にもなるのではないかと。

会長：今回は、提言の中に今後どのように実行していくかという項目を作り、それを重要視して、実行計画を立てていけばいいというのが私の提言である。

委員：条文のどこかを手直しだけでは協働につながってはいかない。

会長：今までは行政が主体となった。町内会が発信したものに行政が入ってきたりしたらいい。

委員：協働のまちづくりの指針も役場が作っている。

事務局：アンケートにこだわりたいのだが、例えば町民全員から3,000人を抽出してアンケートをやっても協働のまちづくりを知らないと思う。条例を見てもなかなかわかりづらく、自治基本条例の議会の運営に定めた「議会は町民との情報共有に努めます。」という条文が議会だよりによる情報提供につながるということが出てこなかった。議会だよりも発信する側はわかっているが受けている側はわからない。そういうものも含めてもう少しわかるようにしてほしいと言われるのではないかと。

委員：ボランティアセンターが社会福祉協議会にあり、150人ほど登録しているが何をしたいのかわからない。誰かがリーダーになって何かをやれば登録している人はできると思う。

会長：条例の見直しに関してはすべていいことを書いているので、特になしでいいと思う。

事務局：例えば今は、町が情報を発信する広報や防災無線は一方通行である。それを相互交通に出来る時代になっている。facebookなどを使っている自治体もある。町の方の責務として、広報に加えてfacebookなどを活用したPR活動を推進することや、コンビニなどフリーペーパーを置くことなど、いろいろな手法でもう少し町民PRに努めるべきだとかいうことを提言いただきたい。

会長：条例そのものは変更しないで提言を入れていきたい。

事務局：この資料でどのようなことを町がやっているということについて、不十分であれば提言や意見をすることができる。先ほど言った議会だよりの情報提供についても、条文だけを読んで

でもわからないが、全戸配布されている条例の解説を見れば議会だよりは1つの媒体だということがわかる。議会側は議会の役割と責務というものがあるため、今年も開催するが議会報告会を開催し、条例に基づいて積極的に動いている。これについては参加者が少ないので、もっと集まるように工夫すべきというのも1つの検討結果であり、提言である。この資料は事務局が思いつくままに書いているが、皆さんにやっていること、やっていないことを話し合っただくことも1つの検討結果や提言になる。会長が仰る通り、上部の見直しまではいかないが、実際に条文に基づいてどういうことをやっているのかということを検討してもらった結果をまとめて、条文とそぐわないところがあるのなら条文の見直しにもなる。検討していく上で出てくるかもしれないので、今からないと想定しないほうがいい。

会長：それでいいのではないか。要するに今の取組みを具体化していったら、その中から条文が改正されてくるのかもしれない。今のところは条文を基本に、主な取組みをどうしていくかという方向でいきたい。例えば、我々がねぶた祭りをしようという目的を持ったとして、そのねぶたに参加できるのは商工会などの組織もあるが、農家の人は入れないのだろうか。上富良野町にあるあらゆる組織を具体的にもう少し町民が知るべきではないか。

事務局：総合計画を作る時にどんな団体があるかピックアップしている。

事務局：条例の解説でコミュニティというのは、まちづくりに関する多様なつながり、団体を指している。これらは協働のまちづくりを進める重要な主体をなしているところを第7章31条で謳っている。自治会やNPOといった組織されている団体のみを指しているのではなく、いわゆる身近な生活の中の井戸端会議も入っている。これが1つのきっかけでまちづくりになるので、お互いに尊重し合っって人と人との関わりの中でまちづくりを進めようというのが31条の部分である。

会長：ありとあらゆる組織をまとめた表を公表すればすごい数の組織の表ができて、1つの目的に向かってこれのためには誰にやってもらったら皆同意してくれるというのができてくる。

委員：そういう表があれば知らない人も入りたいと思うかもしれない。

事務局：参考までに主な取組みの31条のコミュニティの充実の関係で、9月の広報誌に掲載したのだが、まちづくり活動助成事業補助金を作っている。個人ではだめだが、例えば町内の人が3人集まって講演会をやりたい場合にはその経費の2/3を補助し、1/3は出席者で賄うということを30万の予算でできるようになった。活用してくれるボランティア活動をしている団体に声を掛けているのだが、なかなか皆さん手を上げることがない。

会長：組織はたくさんあるが、それをどのように組み合わせるかというのはその時の内容によって組み合わせ方はたくさんある。

事務局：それではこの会の中ですべての条文ではなく、ピックアップさせていただいて、町民皆がわかりやすいような違うやり方や提言をいただく。最後は他の自治体のように検討結果や提言書にまとめるという形の作業にしたい。先ほども言ったようにアンケートにこだわっているのだが、皆さんの同意があれば、抽出で世帯を決めて来年度にはやらせていただきたい。今のようボランティアの活動の周知が足りないということもアンケートによって実態がわかり、それを基に提言書に入れることができる。

事務局：町民がどう思っているかということを開かないと、ここも効果があるかないかの判断が付かないという考え方である。いいということであればアンケートも考えたい。さらに、事務局で考えた主な取組みについてまとめたが、皆さんの目から見てこんなことも入るのではないということもお教えいただいて、それが町民の意見とどうなのかということをもっとやっていったらいいと思う。

会長：あとは皆さんの意見をいただいて、事務局にまとめていただきたい。

事務局：具体的に何をするかを確認させていただければと思います、レジメの方に目的と時期を記載した。アンケートも25年度予算なので、6月頃にアンケートをやりたいと思っている。アンケートの中身によって見積もるものが違ってくる。何を聞きたいのかということを決めなければやる意味がないものになるので、次回会議で何を皆さんに聞くかという項目の洗い出しをしていきたい。

### **3 その他**

事務局：11月8日（木）午後6時からかみん2階研修室でまちづくりの座談会を開催する。講師は北海道工業大学の苫米地学長で、時間は1時間を予定している。上富良野のいいところ・悪いところを述べていただきながらやっていく。目標人数は30～40人で誰が出てもいい。皆さんの都合が付けば出席していただきたい。また、知っている人を誘っていただければと思っている。

### **次回会議の日程**

会長：次回の会議は12月3日（月）に開催する。